

題材名「ブラッドレーのせいきゅう書」

目 標

- ・家族のために協力し合って、よりよい家庭をつくろうとする態度を育てる。

コンピュータを活用する利点

プロジェクタを使って挿絵を見せることにより、児童が興味・関心をもって資料を聞くことができる。お母さんの請求書の代金を予想させてから提示することにより、お母さんの無償の愛に気付かせることができる。

授業の流れ

家庭でしている手伝いについて発表する。

資料「ブラッドレーのせいきゅう書」を聞いて、話し合う。

(1) ブラッドレーのせいきゅう書についてどう思いますか。

(2) ブラッドレーはお金をもらったとき、どんな気持ちだったでしょう。

(3) お母さんのせいきゅう書を見たとき、ブラッドレーはどんな気持ちだったでしょう。

(4) 「自分の得になるからする手伝い」と「家族のためにする手伝い」とどちらが気持ちよく手伝いできるでしょうか。

今、自分がしている手伝いをお母さんの視点で振り返る。

教師の説話を聞く。

ICT 活用場面

プロジェクタで挿絵を提示し、資料を読んでいった。提示したスライドの場面ごとに発問をして、考えさせていった。

また、ブラッドレーのせいきゅう書は「おつかいちん 1ドル」「おそうじちん 2ドル」「音楽のけいこに行ったごほうび 1ドル」「合計 4ドル」とい



うふうに項目ごとに提示した。それに対して、お母さんのせいきゅう書は、「親切にしてあげた代」「病気をしたときのかん病代」「服や、くつや、おもちゃの代」「食事代と部屋代」「合計」という項目を先に提示し、金額を予想させながら提示していった。高い値段を予想していた児童は、0ドルという金額に驚いていた。

成果と課題

プロジェクタで挿絵を提示することにより、児童が興味を持って学習に取り組んでいた。お母さんのせいきゅう書の金額を提示する場面では、「なんで」「よかった」などの呟きが見られ、学習に引き込まれている様子が伝わってきた。ただし、この場面でブラッドレーの気持ちを考えさせたため、「0ドルでよかった」という意見がたくさん出た。お母さんのせいきゅう書を見てブラッドレーが涙を流す場面で、ブラッドレーの気持ちを考えさせたほうがよかった。

ICT 活用環境等

| | |
|--------|------------------|
| 使用周辺機器 | ノートパソコン1台、プロジェクタ |
| 使用ソフト名 | PowerPoint |
| 使用教室 | 普通教室 |